

平成30年7月12日
東部農林振興センター松江農業普及部安来支所

| | |
|-----|--------------------------|
| 標 題 | 集落営農法人がタマネギ機械の実証に取り組みました |
|-----|--------------------------|

(ダイジェスト)

安来市の農事組合法人「おおつか営農組合」がタマネギの定植、収穫、拾上げ、乾燥までの一連の機械作業を実証しました。

安来市の農事組合法人「おおつか営農組合」では、主力の水稻、SGS等の飼料米生産に加え、経営多角化に向けた園芸作物として、タマネギ、レタス、スイセン球根の栽培に取り組んでいます。このうち、タマネギについて定植から収穫・乾燥までの機械化体系を実証しました。

機械化体系の確立しているタマネギを導入する前段として、JAしまねの「機械化パッケージ」提案を関係者間で協議し、それを基に面積約20aで取り組みました。

まず、トラクタによる耕耘、畝立ての後、M社製の全自動移植機で昨年12月4日にセル苗を定植しました。

収穫は、本年6月22日にK社の歩行型収穫機および「玉ねぎピッカー」で拾い上げ、後部に接続した「玉ねぎコンベア」によって追従する運搬車へ移す一連の機械作業を行いました。

さらに、乾燥についてはT社の簡易型強制通風システムによって、約2週間ハウス内乾燥を行っています。

組合では、同時期にスイセン球根栽培、春まきレタス栽培も実施しており、今後のタマネギ栽培にあたっては、作業性や収益性を考慮し、導入の可否や面積を判断することとしています。



たまねぎ移植機



たまねぎ収穫機



玉ねぎピッカー



簡易型強制通風システム